

「安全・安心なまちづくりを」目指して

宗像市長 伊豆 美沙子

宗像保護区保護司会の皆様におかれましては、コロナ禍で活動が制限される中、「社会を明るくする運動」をはじめとした再犯防止に向けた様々な活動を通して、宗像地区の安全・安心なまちづくりに多大なるご貢献をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。

現在、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、社会の在り方が大きく変化しております。目まぐるしく変わる日常に不安を感じる日々が続く中、コロナ差別、虐待、いじめなど、痛ましい人権侵害事象が報道されています。

また、昨今ではインターネットを利用した誹謗中傷や差別発言など、差別扇動が新たな人権侵害事象として社会問題化しており、犯罪のあり方も多様化かつ複雑化しています。



発行責任者 日隈 一憲
宗像保護区保護司会
事務局 宗像保護区更生保護サポートセンター内
宗像市東郷2丁目
1番43号201
TEL 0940-72-1931
FAX 0940-72-1932

宗像市においては、「第二次宗像市総合計画（後期基本計画）」及び「宗像市人権教育・啓発基本計画」に基づき、「互いに尊重し協力し合う社会の充実」を目標に、自他の人権が尊重される都市の実現を目指し、人権教育・啓発活動に取り組んでいます。

平成二十二年以降、市内での刑法犯認知件数は毎年千件を下回っていますが、今以上に犯罪件数を減少させるために、地域によるきめ細かな防犯活動や再犯防止の取り組みが不可欠です。

保護司会をはじめとする各関係機関や地域コミュニティ、市民活動団体との協働による防犯に関する啓発活動を充実していくことが大切です。

市民の皆さんが安全で安心して生活できる環境を整備することは、まちづくりの原点ともいえます。市民を守り、支え合う「愛広がる人権のまち」の実現を、宗像保護区保護司会の皆様や関係機関の協力のもと目指していきたいと考えています。

結びになりますが、宗像保護区保護司会の益々のご発展と、会員の皆様方のご活躍を祈念申し上げます。



「不易と流行」

宗像保護区保護司会
会長 日隈 一憲

保護司信条

私たち保護司は、社会奉仕の精神をもって、

- 一、公平と誠実を旨とし、過ちに陥った人たちの更生に尽くします。
- 一、明るい社会を築くため、すべての人々と手を携え、犯罪や非行の予防に努めます。
- 一、常に研鑽に励み、人格識見の向上に努めます。

今年度五月の福岡県保護司会連合会代表者会の資料に、孤立しがちな非行少年や出所者の立ちなりを地域で支える保護司は、世の中の流行(変わるもの)に対処しつつ不易(変わらないもの)を伝える役割を担っているという内容が記されていました。松尾芭蕉の残した「不易と流行」の言葉が使われていました。

二十六年前に保護司の任命を受けた私の保護司会の活動を振り返ると、対象者を受け持つこと、社会を明るくする運動への参加が主でした。当初「社明運動」は市のマイクローパスに横断幕を張り、市内を一巡していました。その後はスーパー等の店頭でティッシュを配布し啓発を行なうようになりました。併せて小・中学校に作文を依頼に行きました。

現在では福津市、宗像市の全小学校が参加してくれています。一昨年から小学校に「社明運動」及び「作文の書き方」についての「出前授業」に出かけることに取り組み

ました。今年度は六校の小学校で「出前授業」を実施することができました。

また、中学校には、中学校長会に出向き日本更生保護協会刊行の「生きる力はきみの中にある」のワークブックを進呈し、授業における活用をお願いしました。

本来、「社明運動」は行政の長が推進委員長となり組織を確立して「犯罪のない明るい社会」を推進していく役目を担っています。そこで今年度、保護司会では、宗像・福津の市長に申し入れを行い「不易と流行」を引き継ぐ、保護司会活動に、今後も市民の皆様のご理解とご協力を願ってやみません。

最後に私の前に会長を勤められた、植木健二保護司がお亡くなりになりました。残念でなりません。紙面をお借りして心よりお悔やみ申し上げます。

追悼

ここに、ご生前の御功績をしのび、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

宗像保護区 福津支部 植木 健二様

令和四年九月一日逝去 享年七六歳

- 令和四年度 福岡県 更生保護功労者顕彰受表彰者
- 全国保護司連盟理事長表彰 ● 入江 きよ子 (宗像市)
- 九州地方更生保護委員会委員長表彰 ● 白磯 祐馬 (福津市) ● 原口 貢 (宗像市)
- 九州地方保護司連盟会長表彰 ● 高山 芳文 (福津市) ● 横山 誠 (福津市)
- 福岡保護観察所長表彰 ● 有馬 宏 (宗像市) ● 井浦 潤也 (宗像市) ● 輪竹 賢一 (宗像市) (更生保護法人役員、恵辰会)
- 福岡県保護司会連合会長表彰 ● 石松 俊也 (宗像市) ● 内田 龍男 (宗像市)
- 福岡県保護司会連合会長感謝状 (家庭功労者) ● 平田 恒敏 (宗像市)
- 九州地方保護司連盟会長感謝状 (家庭功労者) ● 白磯 由美子 (福津市)
- 福岡県保護司会連合会長感謝状 (家庭功労者) ● 吉田 益美 (宗像市)
- 福岡県保護観察所長感謝状 ● 岡 和子 (福津市) ● 寺尾 元子 (宗像市)
- 福岡県更生保護女性連盟会長表彰 ● 石松 貴子 (宗像市) ● 早川 和子 (宗像市) ● 石松 彌生 (宗像市)

2020年から宗像保護区では小学校に出前授業を始め今年で3年目を迎えました。開始理由は学校現場からの「社会を明るくするための作文はどう書いたらいい?」という問い合わせがあったからです。

保護司会では説明のためのプレゼン資料を作成し、学校に出かけて小学生の前で直接伝える授業を行ないました。

学校の通常授業の邪魔にならないように「出前授業をお願いします。」の依頼を受けて実施しています。

今年度は、東郷小学校・南郷小学校・日の里西小学校・玄海小学校・玄海東小学校・上西郷小学校の6校に出向きました。

授業者の感想・今後への展望

- 「保護司」という小学生にとっては聞きなれない言葉に対して「なんだろう」という意識からか説明をよく聞いてくれた。
- 保護司の仕事内容を説明できた。
- 授業の終わりに質問コーナーを設けたが、「面会の時に怖くないのか」等が出され犯罪の重さを説明することができた。
- 出前授業のことを、子ども達が家に帰って保護者に話をしていてそれが作文の中に現れていた。子どもが親を啓発してくれていた。

「社会を明るくする運動」啓発活動のいろいろ



更生保護サポートセンター紹介

「更生保護」について理解を深めていただくため、街頭啓発・児童生徒の作文・法務省のパンフレット等の紙面を設けました。

六校の小学校で「社会を明るくする運動」の出前授業をさせて頂いたこと、保護司活動について知ってもらうことが出来ました。

犯罪や非行の立ち直りに必要です。地域とともに見守っていただければ幸いです。

編集後記

宗像地区では令和元年(二〇一九年)に宗像市東郷に開設しました。

更生保護サポートセンターとは、保護司・保護司会が、地域の関係機関・団体と連携しながら、地域での更生保護活動を行うための拠点です。その多くは保護司会が市町村や公的機関の施設の一部を借用し、開設しており、そこでは、経験豊富な「企画調整保護司」が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や関係機関との連携による地域ネットワークの構築等を行っています。

宗像地区では令和元年(二〇一九年)に宗像市東郷に開設しました。

開所日時

曜日 火・水・木・金曜日
(祝日・盆・正月を除く)

時間 午前10時～午後4時

電話 0940-72-1931
FAX 0940-72-1932

第72回「社会を明るくする運動」作文コンテスト受賞作品

宗像保護区最優秀賞 (小学生の部) 私にできることは何だろう

宗像市立大島学園 六年 佐藤 来飛

私は、道徳の授業の時に、犯罪でつかまった人が、出所した後には社会へ復帰できるようにと、支援する人々がいるのを知りました。その授業を受けた時に、支援をする人々は、犯罪でつかまった人のことがこわくないのかなと思いましたが、私だったら、こわくて近づけないなと思いました。でも「人とのつながりが大切です。」という、ある支援者の言葉に、私たちにもできることがあるかもしれないと思いました。そこで、できることを考えてみました。

私が、社会を明るくするためにできることは、二つあると思います。例えば、まずはこのような支援制度があることを学ぶことが大切だと思います。私は、道徳の授業で習う前は、まったく知りませんでした。犯罪は、決してゆるされないことですが、反省をしてやり直そうとしても受け入れてもらえないと、生活ができなくなってしまう罪を犯してしまうかもしれません。だからこそ、



周りの人がそういう支援が必要であることを知っておかなければならないと思います。また、学校で学んだあとは、お父さんやお母さんに、教えることができます。そして、子どもから大人へと支援の輪を広げることができるかもしれません。社会を明るくする一歩になると思います。

二つ目に、地域のボランティア活動に参加することが大切だと思います。なぜなら、地域のボランティア活動に参加すると、地域の方とのつながりが強くなるからです。つながりをもっておくと、だれかがつらい目にあっているときには、助け合うことができます。だれかが困っていれば、助けてあげることができそうです。

家族や友人以外にも、いろんな大人の方と知り合っていくと、また違った考えや意見を聞けると思っています。自分が困ったときに相談して、悩みが消えたら明るくなります。人とのつながりを大切にすると、社会全体も明るくなるのではないかと思います。しかし、私たち六年生は、まだまだボランティアに参加した回数が少ないので、ぜひ積極的にこれから参加して

ていきたいです。罪を犯す人とは、仲良くなれないと思っていました。さらなる犯罪が起らないように、周りの人ができることはたくさんあると思います。私たち六年生は、学校では勉強を頑張るだけでなく、

北九州市にある「野口さんの油屋さん」は全国でも有数の協力雇用主です。以前に母から聞いていたので、インターネットで「発信！北九州」というネットアイビーニュース社の野口さんのインタビュー記事を読みました。協力雇用主とは、仮釈放や保護観察中の人を雇用して社会復帰を支える事業主のことです。野口さんが協力雇用主になったきっかけは、奥さんから相談されて非行歴のある子を雇ったことだそう。その子と会って何度も話していくうちに、素直な子ということが分かり、実際に雇ってみると真面目な頑張り屋で、最初に会ったときと劇的に変わっていたそうです。そんな様子を見て野口さんは子どもは居場所を見つけるとこんなに変わることができると実感し、子どもを見る目が変わりました。

私は、野口さんが「今までの経験から子どもの問題の原因は家庭にあり、子どもを変えようとするのではなく、

張ったり、相手のことを考えて動いたりして、周りの人を大切にすることができます。すると、罪を犯そうとする人がいなくなると思います。できることを一つ一つやって、社会を明るくしていきたいです。

宗像市立自由ヶ丘中学校 七年 山口 絢菜

学校感謝状受賞校

学校で百作品以上または全校生徒の九十%以上の応募があった学校には学校賞が贈られました。宗像地区から次の十校が学校賞に輝きました。

宗像市 (赤間小学校・河東西小学校・河東小学校・東郷小学校・河東中学校・中央中学校)

福津市 (福岡小学校・福岡南小学校・福岡中学校・福岡東中学校)

作文コンテストは「社会を明るくする運動」の一環として、日常の家庭生活や学校生活の中で犯罪や非行などについて考えたこと、感じたことを書き、理解を深めてもらうことを目的として行なわれています。

本年度もコロナ禍の中で、宗像市、福津市の小中学校全校から多数の応募をいただきました。ありがとうございました。

小学校一五七六点

中学校一八一三三三

ご協力ご指導くださいました先生方や関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。

作文を応募してくれた小学生と中学生のみ皆さんどうもありがとうございました！ また、保護者の方の関わり、励ましありがとうございました！

新任・退任保護司紹介

新任保護司

野上順子 (宗像市) 令和四年四月一日

植木 健二 (福津市) 令和四年九月一日

北野真理子 (福津市) 令和四年十月十日

退任保護司

長い間ご苦勞様でした

更生保護の歴史

日本の近代的な更生保護の源は、静岡県に明治21(1888)年に設立された「静岡県出獄人保護会社」にあるとされています。この保護会社は、明治時代の実業家として有名な金原明善(静岡県浜名村長で天竜川の治水事業や北海道の開拓・植林事業など近代日本の発展に貢献した人物)と静岡監獄の副所長だった川村燭一郎らによって設立されました。釈放者の宿泊保護や就職斡旋を行うと共に、静岡県下に1,700人の保護委員を配置して釈放者の保護に当たったと言われていました。これが更生保護施設と保護司制度の先駆けとなりました。その後全国各地に釈放者保護団体が設けられました。

このように、明治以来、民間の発意によって日本の更生保護制度は生まれ発展し続けてきた経緯があり、今もなおこの精神が民間ボランティアに引き継がれています。この保護司の活動を補助してくれるのが更生保護女性会です。

おかえり。

罪を犯した人も、やがて社会に戻ってきます。これらの人たちが再び罪を犯すことを防いで立ち直りを助けるとともに、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会をつくるための取り組みがあります。それが「更生保護」です。

●保護司とは… 罪を犯した人の立ち直りを地域で支えるボランティアです

●繰り返される「あやまち」を減らし、つまづいても、やり直せる社会へ。「おかえり。」という言葉には、更生保護の原点にある思いが込められています。

彼らの立ち直りには、**地域社会の支え(地域の子カラ)**が必要です。

罪を犯した人たちが、地域社会に戻ってきた時、生活上の様々な問題にしっかりと対応できず、再び罪を犯してしまうことがあります。

就労の問題 住居の問題 孤立の問題

罪を償い、立ち直ろうとする人を地域社会で支え、犯罪や非行を未然に防ぐ「更生保護」は、地域社会の安全・安心の実現を目指しています。



- 令和四年度宗像保護区の取り組み紹介**
- 四月 ○宗像保護区保護司会総会
 - 保護司会支部総会(宗像支部・福津支部)
 - 第一期地域別定期研修会
 - 五月 ○宗像区更生保護女性会総会
 - 保護観察所定期研修会
 - 六月 ○総理・県知事メッセージの伝達 (両市長へ)
 - 社明作文コンテスト要領の配布 (小・中学校へ)
 - 保護司専用ホームページ運用開始
 - 七月 ○社会を明るくする運動街頭啓発活動
 - 「社明作文出前授業」
 - 「日里西小・東郷小・南郷小」
 - 八月 ○「社明作文出前授業」
 - 「玄海小・玄海東小」
 - 機関紙作成委員会開始(その後六回)
 - 九月 ○「社明作文出前授業」(上西郷小)
 - 保護観察所と宗像保護司会のオンライン接続
 - 第一期地域別定期研修会
 - 十月 ○社明作文審査会
 - 理事選挙委員会開始
 - 十一月 ○第三期地域別定期研修会
 - 福津支部視察研修会
 - (直方保護区保護司会視察)
 - 宮司浜海岸清掃(福津支部)
 - 組織一元化プロジェクト委員会
 - 十二月 ○社明作文表彰伝達
 - 大島学園・自由ヶ丘中・東郷小・玄海中
 - 人権講演会参加(宗像支部・福津支部)
 - 一月 ○保護観察所定期研修会
 - 第十六号機関誌配布・送付作業
 - 二月 ○宗像支部保護司・更女合同研修会
 - 三月 ○各支部の総括
 - 総会資料作成

第72回「社会を明るくする運動」作文コンテスト受賞作品



し、職場での触れ合いの中で子どもが成長することで、子どもや社会にプラスになるはず」と言っていました。

私はすぐに子どもと話せる関係になれるかは分かりませんが、地道に少しずつ歩み寄っていくことで信頼が生まれ、犯罪や非行を行ってしまった子を野口さんのように良い将来へ導くことができると思います。

野口さんの記事を読んで、子ども問題、家庭の問題と決めつけて終わるのではなく、自分たち自身が居場所を作っていくという解決の方法まで考えることの大切さを学びました。私も野口さんの油屋さんのように、これからはもめごとをいろいろな面から前に進める方法を考えられる人になりたいです。

福岡県更生保護女性連盟会長賞

みんなやさしい社会であるために

宗像市立東郷小学校
六年 山崎 咲来

学校の授業で保護司さんからお話を聞きました。

私は「保護司さん」という言葉を初めて聞きました。「保護司さん」とは、犯罪や非行を予防するために、罪を犯した人に毎月二回会うことで、その方の更生を支援すると言うことでした。

お父さんに話を聞くと、保護司さんは、刑務所や少年院から出所した人と連絡を取ることで、再び罪を起こさないようにする大切な仕事だと教えてくれました。罪を犯した人は、刑務所を出ると私たちと同じように生活しますが、なかなか就職できなったり、仕事が続かないことも多いそうです。その方々を支援し、相談にのったりすることも仕事だそうで、大変な仕事だと思いました。

お父さんから話を聞いてみると、私が好きな弁護士ドラマに出てきた「懲役三年、執行猶予二年」などのセリフが思い出されました。そのドラマでは、犯罪が確定するまでの話でしたが、保護司さんは、この懲役が終わった後の話だと分かりました。ドラマには懲役を終えた方の話は出てきませんが、ここからが罪を犯した方と保護司さ

んのドラマが始まると思いました。お父さんの知っている方も保護司さんがおられるようですが、私は「保護司」という仕事かと思ったら、「保護司」は仕事ではないということまでびっくりしました。保護司は仕事ではなく、ボランティアのようなもので、給料はもらえないということでした。

お父さんの知っている方もいつもはご主人の仕事をお手伝いされている方で、その方が保護司さんであることはほとんどの方が知らないとのことでした。

保護司さんだけではなく、みんなのためにがんばっている人がたくさんいることが分かりました。私たちが毎日お世話になっている学校の先生も私たち一人一人に悪いことはおこつてくれず、良いことはほめてくれます。友達と仲良くすることが大切だと学びました。市役所の人も私たち市民のために仕事をしているし、町内会長さんも町がよくなるようにしてくれています。

いろいろなことを考えていくと、私たち一人一人がこの社会を作っているのだと思いました。みんな言葉に出さないけど、だれもが平和で楽しい社会で生活したいと思うし、そのために努力しているのだと思います。

ニュースでは、うれしいニュースより残念なニュースの方がたくさん放送されている気がします。いやな気持ちになりませんが、このようなニュースを見て私たちはどのようにしないといけないのか、考えさせられているのではないのかと思いました。

ウクライナでは、戦争でつらい思いをしている方がたくさんいます。殺人で刑務所に入る人がいるのに、なぜ戦争が起こっているのかと思います。戦争の話聞いて、戦争はたくさんの方が亡くなって、たくさんの方が悲しい思いをすることを知りました。私は戦争は国と国のいじめだと思えます。だから私たちは、友達と仲良くしていじめをなくすことが大切だと思います。犯罪や非行もおなじことだと思えます。私たち一人一人がみんなのことを思いやり、一人一人のちがいを認め合うことで犯罪や非行を防止することができると思います。また、刑務所から出てきた方も一緒によい社会を作っていけるといいなと思います。

「保護司さん」の話を聞いて、私も誰かのために、やさしい社会を作るような人になりたいと思いました。



第72回「社会を明るくする運動」作文コンテスト受賞作品

福岡県更生保護協会理事長賞

犯罪のない未来へ

宗像市立玄海中学校
三年 山下 さくら

立ち直ろうとする人の味方になりたい。思うのは簡単だ。しかし、実際心のどこかで元受刑者を否定していないだろうか。「生きづらさ」を作っていないだろうか。社会を明るくする運動を通して、私は犯罪や非行について本気で考えることができた。

犯罪や非行に対して、私はどうしても被害者側の目線で見えちゃう。「巻き込まれたくない」「関わらたくない」と思う。だれもがそうではないだろうか。しかし、そういう考え方が犯罪や非行をなくせない一つの理由ではないだろうか。

私は道徳の授業で保護司という仕事を初めて知った。保護司とは犯罪や非行を犯した人の立ち直りの支援に携わる人のことだ。その仕事の内容を最初に聞いたとき、私には絶対出来ないと思った。しかし、保護司について知るうちに、それは間違いだとわかった。保護司の人たちは、地域貢献や恩返しを目的にボランティアとして保護司をしている。元受刑者が社会復帰した姿を見るとすごく嬉しいという。私は、保護司という仕事にすごく感動した。そして、できな

いと言った自分が嫌になった。結局、本気で立ち直ろうとする人の「味方」になろうとしていないのだ。犯罪や非行をする人たちの気持ちを理解するのは難しい。しかし、犯罪や非行をする人たちにもきつと事情や理由があるのだと思う。

例えば、社会的孤立だ。私は、多くの人の支えがあって生きている。家族、友人、学校の先生、地域の人など多くの人が私の存在を認めてくれていてと感じる。しかし、孤立している人はどうだろうか。何のために生きていくのかからなくなるのではないだろうか。そんなとき、犯罪や非行に走るのかは、周りの人の存在にあるのではないだろうか。少し気にかける、あいさつやすれちがうときの会釈だつて良いだろう。それがきつと存在を認めることにつながるのではないだろうかと思ふ。

私は地島という島に住んでいる。人口は百二十人程度で誰もが顔見知りだ。そんな私の島で特に犯罪はない。それは、島のみんが自分の存在を認められていると感じるからではないだろうか。そんなことで犯罪がなくなるわけがない、と思うかもしれない。しかし、自

分の存在を認めてもらえないとき、犯罪を犯してテレビで流れれば自分が存在していることを知ってくれるのではないかと思ひ、犯罪や非行に走ってしまうのではないだろうか。そのように考えれば犯罪や非行をなくせるのは警察ではない、私たちだ。同じ世界を生きている仲間として、元受刑者や犯罪、非行に走つてしまふ人の敵ではなく、味方になるべきだ。

味方になるといふと難しく思うが、地域の一人として自分や他人を認め合うことが犯罪や非行を減らす第一歩だと私は思う。

家族に、「犯罪を犯して新聞に載るのだけはやめてくれ」と言われたことがある。新聞に載る事件に関わることのない人生を送りたい。日本中のだけれどもそう思ひ、新聞が良いニュースであふれるまで、私はこう信じていたい。「犯罪や非行をなくすのはほかの誰でもない私たちだ。」と。



宗像保護区最優秀賞・優秀賞作品

● 小学校最優秀賞
大島学園六年 佐藤 来飛
「私にできることは何だろ?」

● 中学校最優秀賞
自由ヶ丘中学校七年 山口 絢菜
「野口さんの油屋さん」

● 小学校優秀賞
東郷小学校六年 山中 咲来
「みんなにやさしい社会であるために」

● 赤間小学校六年 花田 一真
「地域とのつながりで犯罪を防止しよう」

● 中学校優秀賞
福岡中学校三年 武下 紗也
「支え合い」の波紋」

● 玄海中学校三年 山下 さくら
「犯罪のない未来へ」

宗像地区のこれら六作品を福岡県保護観察所に推薦していたところ、次の三作品が福岡県優秀賞に選ばれたという大変うれしい知らせが届きました。急遽、本機関誌のページを増やして県入賞作品を掲載することになりました。

福岡県優秀賞

福岡県更生保護女性連盟会長賞
東郷小学校八年 山中 咲来

福岡県優秀賞

福岡県保護司会連合会会長賞
自由ヶ丘中学校七年 山口 絢菜

福岡県優秀賞

福岡県更生保護協会理事長賞
玄海中学校三年 山下 さくら

